

6. おわりに

本報告書では、熱環境改善の考え方、新宿御苑及び周辺市街地の熱環境、熱環境の改善に向けた課題と対策の方向性、そして具体的な将来市街地像の提案及びその評価までの一連を整理し、さらに具体的な普及・啓発の事例までも紹介した。

熱環境改善の手法に唯一の解があるわけではなく、その地域の持つ特性に適した現実的な進め方を模索していくものと考えられる。本構想でも現状の市街地をベースに、現状改善案、部分改善案、全面改善案の3つの将来市街地像を具体的に示し、その定量的な評価を行った。将来市街地像の評価にあたっては、「風の流れ」と「大気への熱負荷」という2つの視点で別々に実施し、建物の緑化や風の道の創出の効果、さらには風の流れを遮らず熱負荷のほとんどない市街地像などを評価することができた。しかし、冷涼な風の拡張を厳密に評価しようとするれば、熱と風を同時に評価するようなツールを用いた検討が求められる。

今後は、得られた成果を広く社会に紹介し、緑や風、水を活用した熱環境改善の考え方を普及していくことが重要である。また、本構想のモデルとなった新宿御苑周辺地域の関係者には、この結果を参考に、より具体的な動きに役立てていただくことができるのではないかと考える。新宿御苑と地域の関連から見ると、新宿区の「水と緑のネットワーク」をつなげる取り組みのシンボルとして、新宿御苑北側に「玉川上水」を復活させることをテーマに、新宿区主催「都心部における水とみどりのネットワークによる自然環境の再生に関する検討会」で、実現の可能性を模索しているなど、新宿御苑の自然を活用した地域づくりの重なりを見ることが出来る。もちろん、具体化に向けては、新宿御苑はじめ関係者の協力、莫大な財源、そして市民も参加する継続的な管理の仕組みづくりなどが必要であり、一朝一夕で実現できる話ではない。しかし、新宿御苑をモデルとして検討した都市緑地の冷気を活用して地域の熱環境を改善しようとする本構想を活かし、まずは現状改善案からでも一歩ずつ具体化に向けた検討が行われ、さらには環境都市再生の道筋へと繋がり、その動きが各地に波及していくことが期待される。